

令和5年度

事業報告書

令和5年度 事業報告書

予算額/決算額

公益目的事業1 ～長寿科学研究等支援事業～

(前年度決算額)

長寿科学に携わる研究者に対し、その研究費等を支援する事業

(1)長寿科学研究者支援事業

176,926千円/172,749千円

(146,471千円)

(1) -1. 令和3年度 「指定課題研究」採択者

No	研究者	所属機関	研究課題	期間	助成額(円)
1	新飯田俊平	国立長寿医療研究センター 研究推進基盤センター長	認知症におけるデータベース構築手法の研究	指定課題 R3-R5 (3年間)	最終 27,417,928 総額 83,563,560

・報告会の開催 (令和6年2月8日)

報告会内容

国立長寿医療研究センターにある臨床データ、脳画像データ、各種オミックス情報、バイオバンク登録データをクリーニングし、13,228人分のデータ登録を完了して、データベースを構築した。利用ルールを策定しデータベースを活用していく。

【指定課題審査評価小委員会 委員】

委員長 井口 昭久 愛知淑徳大学健康医療科学部 教授

副委員長 荒井 啓行 東北大学 名誉教授

長谷川 敏彦 (一社) 未来医療研究機構 代表理事

(1) -2. 「長生きを喜べる長寿社会実現研究支援」採択者

令和4年度採択者

No	研究者	所属機関	研究課題	期間	助成額(円)
1	三浦 久幸	国立長寿医療研究センター在宅医療・地域医療連携推進部長	アドバンス・ケア・プランニング推進のための共通ICTプラットフォーム構築—どこで療養していても本人意思が尊重される社会作り	探索研究 R4-R5 (2年間)	最終 10,000,000 総額 20,000,000
2	檜山 敦	一橋大学 ソーシャル・データサイエンス教育研究推進センター 教授	貢献寿命延伸への挑戦！ ～高齢者が活躍するスマートコミュニティの社会実装～	実装研究 R4-R6 (3年間)	2年目 30,000,000 総額 90,000,000

令和5年度採択者

No	研究者	所属機関	研究課題	期間	初年度助成額(円)
3	斎藤 民	国立長寿医療研究センター 老年社会科学 研究部長	ユニバーサル・フレンドリ・ファシリティが認知症の人と地域住民の社会参加向上とスティグマ軽減、ウェルビーイング向上にもたらす効果検証	探索研究 R5-R6 (2年間)	1年目 10,000,000 総額 20,000,000

- ・中間報告会（令和5年10月2日）3件の研究の進捗状況を確認
- ・継続審査・最終報告会（令和6年2月28日）2件の研究の継続と1件の最終報告

【審査評価委員会 委員】

委員長	駒村 康平	慶應義塾大学経済学部 教授
副委員長	飯島 勝矢	東京大学高齢社会総合研究機構 機構長
	秋下 雅弘	東京大学大学院医学系研究科 教授
	阿久津 靖子	(一社) 日本次世代型先進高齢社会研究機構 代表理事
	翁 百合	(株) 日本総合研究所 理事長
	鎌田 実	(一財) 日本自動車研究所 代表理事
	近藤 克則	千葉大学予防医学センター 教授
	長谷川 友紀	東邦大学医学部 教授

(1) -3. 令和6年度「長生きを喜べる長寿社会実現研究支援」の新規採択審査及び結果

- ・応募件数 : 43件
- ・採択件数 : 無

(不採択理由)

研究活用の余地、ビジネスモデルのイメージが得られなかった。
収益計画の事業イメージがみえないので、投資資金を得ることは現実的にはできない。

(経過)

- ・書面審査（令和5年8月14日～9月8日）各審査委員に振分け（20件程度）
 - ・1次審査会（令和5年9月29日）⇒書面審査集計及び会議により3件通過者選定
 - ・2次審査会（令和5年10月30日）プレゼンテーション、質疑応答 4件
- ※令和4年度に採択された2年間のA探索研究後、次の実装研究も2次審査から合同審査とされたことから、4件のプレゼンテーション審査(3件+1件)
最終審査会へは、1件選定（11月20日理事会への報告）
- ・最終審査会（令和5年11月27日）プレゼンテーション、質疑応答、合議により不採択

(1) - 4. 令和5年度「高齢社会課題解決研究および社会実装活動への助成」

Google 寄附事業

【 93,897 千円 / 92,633 千円 】

助成期間: 1年10か月間(令和5年3月～令和6年12月)

(74,082 千円)

令和5年度 「高齢社会課題解決研究および社会実装活動への助成」 採択者

No	研究者	所属機関	研究課題	期間	令和6年2月 助成額
1	島田 裕之	国立長寿医療 研究センター 老年学・社会 科学研究セン ター長	高齢者のスマートフォン利 用促進を介したアクティブ ライフ・コミュニティーの 形成	2年計画 2年目	1年目 27,248,000 2年目 22,750,000 総額 49,998,000
2	瀧 靖之	東北大学加齢 医学研究所 教授	“学び合い”プログラムを 用いたデジタルスキルラー ニング・エコシステムの開 発と実装～多世代型互助に よるスマート・インクルー ジョンの実現～	2年計画 2年目	1年目 17,750,450 2年目 32,249,550 総額 50,000,000
3	村山 洋史	東京都健康長 寿医療センタ ー研究所 社会参加とヘ ルシーエイジ ングチーム 副部長	「ジョブボラ」の創出とデ ジタルマッチングの実装に 向けた研究: 誰もが活躍で きる社会を目指して	2年計画 2年目	1年目 25,000,000 2年目 25,000,000 総額 50,000,000
1年目合計 (69,998,450円) 2年目合計 (79,999,550円) 総額 (149,998,000円)					

- ・採択研究の進捗管理委託業務 株式会社 日光アカデミー 代表取締役 篠崎尚史
- ・月1回各プロジェクトマネージャーと定例会議・進捗状況調査
- ・10月7日 東北大学 SENSIN プロジェクト キックオフ発表会開催 (仙台市)
- ・11月21日 Google との打合せ
- ・12月27日 Google 寄附事業中間報告会開催 (名古屋市)
- ・1月30日 Google への決算、事業報告

【高齢社会課題解決研究審査評価委員会 委員】

委員長 荒井 秀典 国立長寿医療研究センター 理事長
副委員長 葛谷 雅文 名鉄病院 病院長
大高 洋平 藤田医科大学医学部 主任教授
篠崎 尚史 国立長寿医療研究センター 理事長特任補佐
鈴木 みずえ 浜松医科大学臨床看護学講座 教授

(2)長寿科学関連国際学会派遣事業

令和5年度の事業は休止した。

0千円

(3)若手研究者表彰事業

令和5年度の事業は休止した。

0千円

公益目的事業 2 ～情報提供事業～

長寿科学研究の成果や健康長寿に関する情報を広く国民に提供する事業

(1) 業績集の発行

0 千円

令和 5 年度の事業は休止した。

(2) 機関誌の発行

14, 966 千円 / 15,179 千円



(14,660 千円)



健康長寿情報や長寿科学研究成果を分かり易く広報するために、WEB 版機関誌「Aging & Health(エイジングアンドヘルス)」として PDF 版を年に 4 回(春・夏・秋・冬)発信する。また、この機関誌 PDF からアンケートとメルマガ会員を効果的に勧誘する経路や仕組みを模索した。

- ・第 1 回広報委員会(令和 5 年 5 月 18 日)今後の財団の広報について検討
- ・第 2 回広報委員会(令和 5 年 8 月 30 日)第 109(春)～110 号(夏)の編集企画について
- ・第 3 回広報委員会(令和 6 年 1 月 11 日)第 111(秋)～112 号(冬)の編集企画について

【広報委員会 委員】

委員長	柳澤 信夫	(一財) 全日本労働福祉協会	会長
副委員長	鳥羽 研二	東京都健康長寿医療センター	理事長
	飯島 勝矢	東京大学高齢社会総合研究機構	機構長
	飯野 奈津子	医療福祉ジャーナリスト	
	井藤 英喜	東京都健康長寿医療センター	名誉理事長
	櫻井 孝	国立長寿医療研究センター	研究所長
	佐藤 眞一	大阪大学	名誉教授

号数	公開日	特集 企画アドバイザー	1) インタビュー 2) 地域の鼓動
105(春) 	R5/4/21	高齢者の QOL・生きがい・健康・活力のエンパワメント 東京大学高齢社会総合研究機構 機構長 飯島勝矢	1) シニアチアダンスチーム「ジャパンポンポン」代表 滝野文恵 2) 共同菜園ボランティアで男性シニアの生きがいづくり(大阪 シニアボランティアアグリ)
106(夏) 	R5/7/14	弱っても安心して生き生き 過ごせるまちづくり 東京都健康長寿医療センター 一研究所副所長 藤原 佳典	1) 弁護士・元さわやか福祉財団会長 堀田 力 2) 全世代参加型のごちゃまぜのまちづくり(栃木県大田原市 一般社団法人えんがお)

号数	公開日	特集 企画アドバイザー	1) インタビュー 2) 地域の鼓動
107(秋) 	R5/10/14	認知機能が低下しても個人の尊厳を尊重した普段の生活における様々な意思決定支援 国立長寿医療研究センター研究所長 櫻井 孝	1) 看護師 細井恵美子 2) ウィッシュカードで認知症の人とサポーター、地域をつなぐ(神奈川県相模原市 さがみはら認知症サポーターネットワーク(さがサポ))
108(冬) 	R6/1/30	高齢者に優しい・デジタル技術の開発・実装 一般社団法人日本次世代型先進高齢社会研究機構(Aging Japan)代表理事 阿久津靖子	1) デジタル庁デジタル推進委員アンバサダー 牧 壮 2) 村まるごとデジタル化で子どもたちに未来をつなぐ(高知県日高村 村まるごとデジタル化事業)

(3) 健康長寿ネット

6,384 千円／6,163 千円

(5,791 千円)

本財団のホームページ「健康長寿ネット(<https://www.tyojyu.or.jp/net/>)」により、老化予防や健康づくり、疾病、介護予防など、健康長寿に関する情報を広く国民に提供した。また、財団とコアなファンと双方向につながり情報提供のあり方の下地づくりを行った。

※健康長寿ネットへは QR コードからアクセスください。



(3) -1. 掲載内容と記事数 (令和6年3月末時点) ※各項目の目次ページ(index.html)も含む

項目	内容	記事数※
健康長寿とは	「高齢者の食事摂取基準」「運動器の老化」「日本人はなぜ長生きか」「高齢者の生きがい」など 自分でできる健康長寿のための情報を紹介	413
高齢者の病気	「サルコペニアとは」「フレイルとは」「老年症候群」「認知症」「肺炎」など 高齢者に多い病気・症状をわかりやすく解説	474
高齢者を支える制度とサービス	「認知症高齢者の日常生活自立度」「地域包括支援センター」「地域密着型サービス」など 介護保険制度や利用できるサービスなどを紹介	174
対談・特集・研究情報	財団機関誌「Aging & Health」から対談・特集・研究情報を転載掲載および事務局企画による特集記事を掲載	419
エッセイ	井口昭久先生のエッセイ「老いをみるまなざし」、宮子あずさ先生「訪問看護師から老いをみると」他、財団機関誌「Aging & Health」からエッセイを転載	212
インタビュー	財団機関誌「Aging & Health」から「いつも元気、いまも現役」を転載	36
介護予防のための生活機能チェック	介護保険法による「基本チェックリスト」に基づく、介護予防のための生活機能チェック(25問)をインターネット上で提供	39
合計		1,767

(3) -2. メールマガジンの配信

利用者の長寿科学の情報に対する需要の把握と、利用者と財団との双方向の対話の仕組み作りの一環として定期的なメールマガジンの配信を令和2年7月から開始した。

メールマガジン配信の内容

- 健康長寿ネットの更新情報
- 長寿科学研究成果ニュース
- 財団主催のイベントのお知らせ
- 財団発行の刊行物のお知らせ
- 日々に役立つ健康情報(おすすめコンテンツ)
- ご寄付のお願い

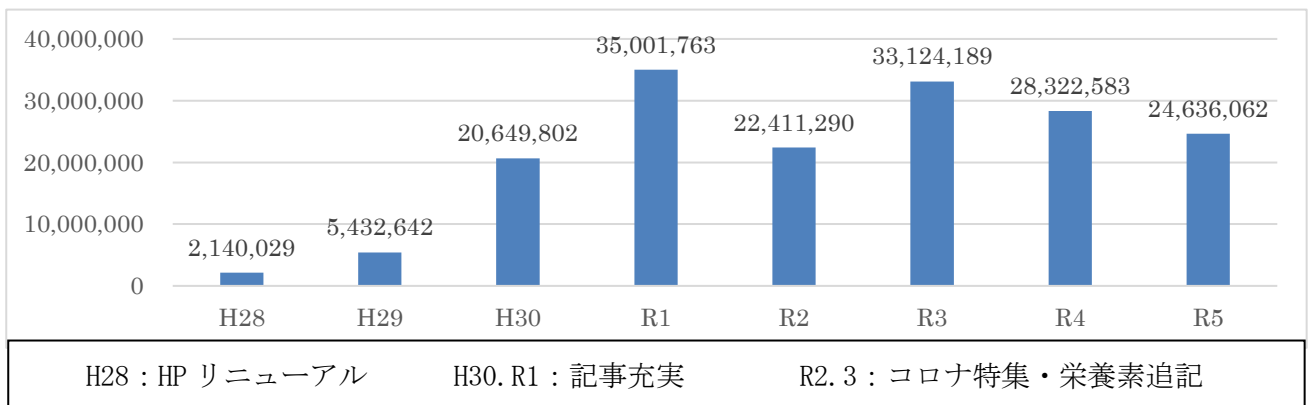
メールマガジン登録者の概況

登録者数(累計):17,150人(令和6年3月末)
令和5年3月末から3,397人増加

所属	人数	割合(%)
無職	3,055	17.8
会社員・役員	2,794	16.3
医療従事者	2,038	11.9
主婦・主夫	1,628	9.5
自営業・自由業	1,519	8.9
パート・アルバイト	958	5.6
その他	1,016	5.9
介護施設職員	1,005	5.9
公務員	441	2.6
大学・研究機関研究員	454	2.6
団体職員	339	2.0
派遣職員	143	0.8
学生	97	0.6
メディア関係	64	0.4
不明	1,599	9.3
総計	17,150	100.0

(3) -3. 健康長寿ネット事業

① アクセス数推移(年度)



② アクセス内容

項目	アクセス数 (訪問者数)	閲覧頁数 (ページビュー数)	平均閲覧時間 (分)	新規アクセス率
R5	24,636,062	28,558,397	1:18	98.82%
R4	28,322,583	35,708,937	0:57	86.07%
前年比	86.98%	79.98%	21秒	12.75%

③ 訪問者属性(年齢別・性別・閲覧環境) Google 解析プログラム変更により以下の期間分 A) 年齢 (令和5年8月1日~令和6年3月31日)

年齢	18-24	25-34	35-44	45-54	55-64	65~
R5 割合(%)	17.26%	24.08%	24.83%	16.93%	9.08%	7.82%
R4 割合(%)	17.24%	24.23%	25.64%	16.08%	8.89%	7.92%
前年比	0.43	-0.55	-0.48	0.39	0.14	0.06

B) 性別

性別	男性	女性
R5 割合 (%)	46.0%	54.0%
R4 割合 (%)	48.6%	51.4%
前年比	-2.6	+2.6

C) 閲覧端末

端末	モバイル	デスクトップ	タブレット
R5 割合 (%)	74.70%	23.00%	2.30%
R4 割合 (%)	72.90%	24.66%	2.44%
前年比	1.80	-1.66	-0.14

D) アクセスランキング

全体表示回数 18,296,727 回

順位	タイトル	閲覧数
1	ビタミンDの働きと1日の摂取量	529,501
2	貧血予防に良い食事・食べ物・調理方法とは	497,679
3	カリウムの働きと1日の摂取量	439,702
4	亜鉛の働きと1日の摂取量	417,941
5	ビタミンCの働きと1日の摂取量	294,043
6	マグネシウムの働きと1日の摂取量	231,676
7	三大栄養素のたんぱく質の働きと1日の摂取量	189,650
8	ビタミンEの働きと1日の摂取量	188,884
9	ビタミンB6/12の働きと1日の摂取量	185,256
10	心拍数と運動強度	163,700

(3) ー4. 健康長寿ネットの著作物等の引用転載(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

健康長寿ネットからの利用申請件数:29件(令和4年度:57件、令和5年度:57件)

※授業目的公衆送信保証制度(2018年5月著作権法改正)

引用転載収益 合計 203,991円

【内訳】

・授業目的公衆送信補償

SARTRAS 15,582円

(一社)日本美術著作権連合 30,794円

(一社)学術著作権協会 151,015円

・作品使用料 株式会社 Gakken 6,600円



制度の詳細 QR

(4) 長寿たすけ愛講演会開催事業

0 千円

令和 5 年度の事業は休止した。

(5) 長寿科学研究普及事業

1,716 千円／1,714 千円

(4,001 千円)

国立長寿医療研究センターとの連携により、毎年テーマを決め、長寿科学研究に関するシンポジウムを開催している。今年度は「高齢者の嚥下と排泄の障害」をテーマに「IAGG アジア/オセアニア国際老年学会議 2023」と同時開催した。

【第 18 回長寿医療研究センター 国際シンポジウム】

開催日時:6 月 13 日(火) 9:50～17:45

開催方法:IAGG アジア/オセアニア国際老年学会議 2023 同時開催

開催場所:パシフィコ横浜 ノース (神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1-1)

第 18 回国際シンポジウムはオンサイトで行なわれ、参加者の合計は 220 名であった。「嚥下障害とオーラルフレイル」について、栄養管理、苦痛の少ない筋強化はオーラルフレイルに止まらずフレイル全般でも検討して行かなければならない課題であり、オーラルフレイルの疫学、またコミュニティアプローチは、両者の病態に取り組んで行くため必須であり、今後の研究およびその結果の社会実装に非常に有益であると考えられた。老食症(presbyphagia)の概念は、非常に新鮮であり、今後の研究の展開が期待された。